

事業シート（概要説明書）

事業名	津山国際総合音楽祭事業	担当部名	経済文化部
		担当課名	文化振興課
事業開始年度	昭和62年（1987）度		
根拠法令等	津山国際総合音楽祭委員会規約		
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		
事業概要	目的 (何のために)	文化振興による地域づくりの一環として、音楽文化を通じた市民同士の交流の場とする。また、音楽を介した人と人、プロとアマチュア、クラシックとポピュラー、そして地域と地域、地方と中央、日本と世界の相互交流を培う音楽都市を目指す。	
	対象 (誰・何を対象に)	市内外の住民	
	事業内容 (手段、手法など)	芸術音楽から大衆音楽まで、幅広いジャンルのコンサートやプロとアマの共演、市民参加のコンサートの開催など多彩なプログラムにより構成。S62年(1987)より、《未来に架ける人の輪・音の輪》をテーマに現在までおおむね3年ごとに7回開催し、第8回目を平成23年(2011)秋に開催する予定。	
	事業の必要性	音楽都市構想の根幹事業であり、市民の音楽芸術の鑑賞、活動の成果を発表する場となっている。市民参加のプログラム構成により、毎回2000人前後の地元出演者がある。また、入場率は90%以上、1万数千人の観客があり、市民ニーズは高い。	

【支出】		第5回決算	第6回決算	第7回決算	第8回予算
事業費（直接経費）		千円	75,000	65,000	41,000
うち	嘱託職員・臨時職員等	従事者数	人		
		概算人件費	千円		
人件費	正規職員	従事者数	人		
	(平均給与750万円換算)	概算人件費	千円		
総事業費		千円	75,000	65,000	41,000
【収入】		第5回決算	第6回決算	第7回決算	第8回予算
国・県からの補助金等		千円			
使用料・手数料		千円			
地方債		千円			
その他（ ）		千円			
【収支】市の負担額（一般財源）		千円	75,000	65,000	41,000

事業シート（概要説明書）					
第7回事業費内訳	内 容			金 額	
	第7回津山国際総合音楽祭事業補助金			41,000	千円
					千円
事業目的達成のための活動指標	活動指標名	単位	第6回実績	第7回実績	第8回見込
	コンサート等の入場率	%	93	93	95
	観客数	人	14,930	12,844	
	事業費	千円	65,000	41,000	
単位当たりコスト	【市補助金ベースでのコスト】 第6回…(事業費)65,000千円 ÷ (観客数)14,930人 ≒ 4,353円 第7回…(事業費)41,000千円 ÷ (観客数)12,844人 ≒ 3,192円				
目指す成果 (今後どのようにしたいか)	出演者としての市民参加、観客としての市民参加の両面を推進し、真に愛される音楽の祭典にしたい。また、子ども、学生など若い世代に目を向け、音楽文化の普及と発展を図る。				
事業の自己評価	事業目的の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校、高校の吹奏楽の活動が大変活発で、コンクールなどで全国的に高い評価を得ている。</li> <li>・ 幼児から高齢者まで多くの市民・音楽団体による、演奏会の開催や演奏活動が継続されている。</li> </ul> 例：少年少女合唱団(S44～ 県下で3番目)、市民総合音楽祭(S46～)、市民コールアンダンテ(S52～)、第九を歌う会(S58～)、幼児音楽祭(H2～)、各ジャンルの音楽グループが、10年～40年にわたる活動を継続中。最近では、津山交響楽団が再結成され活動を始めた。			
	今後の事業の方向性 (課題・改善計画等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去の音楽祭については、一定の評価はあるものの、「クラシック中心で敷居が高い」「内容が難しい」などの声もある。</li> <li>・ 第7回終了後、「市民懇談会」(17名)を設置し、過去の大会を検証して次回音楽祭に向け、意見・提言をまとめた報告書が音楽祭委員会に提出されている。</li> <li>・ 「市民懇談会」の内容を取り入れ、より市民に親しまれ、感動を与えるものになるよう、今後のプログラム構成や啓発・PR活動を進めていく。</li> <li>・ 事業規模については、経済状況などを勘案しながら見直す必要がある。</li> </ul>			
比較参考値 (他自治体における類似事業の例など)	<b>【第25回倉敷音楽祭】</b> 会期：H23. 3. 19～21 事業費：6,350万円 主催：倉敷市文化振興財団、倉敷市 特徴：1987年第1回から、ベートーヴェンの全曲演奏を中心にクラシック主体で開催。第23回より、国内の地域交流にコンセプトを変更し、イベント中心の参加型音楽祭となる。				
特記事項 (事業の沿革等)	<b>【おかやま国際音楽祭2010】</b> 会期：H22. 10. 2～11 事業費：8,000万円 主催：音楽祭実行委員会、岡山市スポーツ・文化振興財団、岡山市他 特徴：実行委員会が独自で企画する「主催事業」と事業提案を受けて負担金を決定し、事業を実施する「共催事業」とで構成する。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S59(1984) 瀬戸大橋架橋記念事業として、音楽祭の開催を決定 音楽都市構想作成</li> <li>・ S62(1987) 第1回音楽祭開催</li> <li>・ H 2(1990) 第2回音楽祭開催</li> <li>・ H 5(1993) 第3回音楽祭開催 全国地域づくり協議会会長賞受賞</li> <li>・ H 8(1996) 第4回音楽祭開催 作陽音楽大学が倉敷市に移転</li> <li>・ H11(1999) 第5回音楽祭開催 三木記念賞受賞</li> <li>・ H15(2003) 第6回音楽祭開催(津山城築城400年記念事業プレ事業) 岡山県民文化大賞受賞</li> <li>・ H19(2007) 第7回音楽祭開催</li> </ul>				